

第1部

ご挨拶 細川 喜一郎 (実行委員会副委員長)
祝いの舞 二代目 辻村 寿三郎 (人形アーティスト)

フランツ・ペーター・シューベルト (1797~1828) Franz Peter Schubert
「アヴェ・マリア」：エレンの歌 第3番 作品52-6 D.839 (1825年)

オーストリアの作曲家シューベルトが、スコットランドの詩人ウォルター・スコット (1771-1832) の叙事詩「湖上の美人」に曲を付けました。優しくあなたを包みます。

マイ・ハート弦楽四重奏団ひろしま

アントニン・レオポルト・ドヴォルザーク (1841~1904) Antonín Leopold Dvořák
弦楽四重奏曲第10番変ホ長調op.51 (1879年)

後期ロマン派に属するチェコのドヴォルザークは、ブラームスに才能を見いだされ、「スラヴ舞曲集」で一躍人気を集め、スメタナとともにボヘミア楽派と呼ばれる作曲家。1892年、アメリカに渡り、ニューヨーク・ナショナル音楽院院長として音楽教育に貢献する傍ら、ネイティブ・アメリカンの音楽や黒人霊歌を吸収し、自身の作品に反映させています。

代表作に、弦楽セレナーデ、管楽セレナーデ、スラヴ舞曲集、交響曲第8番、渡米後の交響曲第9番「新世界より」、「アメリカ」の愛称で親しまれている弦楽四重奏曲第12番へ長調、チェロ協奏曲などがあります。

ドヴォルザークは14曲の弦楽四重奏曲を世に送り出していますが、現在よく耳にするのは第8番以降の7曲で、ドヴォルザーク自身の強い個性と意志が込められています。

フロレンティヌス四重奏団を率いていたジャン・ベッカーの依頼により書かれたこの弦楽四重奏曲は、ドヴォルザークの「スラヴ舞曲」や「スラヴ狂詩曲」を念頭に、スラヴ風の四重奏曲を希望し、1878年の年末頃から春にかけて作曲が進められ、ベッカーに献呈。初演は1879年7月29日にベルリンで行われた私的な午後の室内楽の集いにおいて、ヨアヒム四重奏団にて行われ、「スラヴ四重奏曲」という愛称でも呼ばれています。

この楽曲のスラヴ的な性格は、ドゥムカの形式を用いたスケルツォ楽章、及び、ショウレクが「まさにチェコの『skočna』(スコチュナー：スラヴの民俗舞踊)の性格を芸術的に様式化したもの」と評した終楽章に由来しています。

*スラヴ民族 (Slavs)：ヨーロッパの三大民族 (ゲルマン民族、スラヴ民族、ラテン民族) のひとつで、東欧を中心に東・西・南に分布しているスラブ諸語を使う人々の総称。

第1楽章：アレグロ・マ・ノン・トロポ 4/4 変ホ長調 ソナタ形式
のどかな風景が醸し出され、優しい空気に包まれます。

第2楽章：ドゥムカ (エレジー) Dumka (Elegie)；アンダンテ・コン・モート 2/4 ト短調
依頼者の要望に応えるべく、曲中でも最も「スラヴ風」の調子を帯びている楽章。冒頭から提示される主題は、第1ヴァイオリンとヴィオラの掛け合いにより歌われていきます。
*「ドゥムカ」とは、スラヴ音楽の哀歌のことで、悲しい要素と陽気な要素との急な交代が特徴の楽曲。

第3楽章：ロマンツェ；アンダンテ・コン・モート 6/8 変ホ長調
「ロマンツェ」の名の通り、抒情的な楽章。静かな導入部に続き、下降音型の主題が登場しますが、この主題が楽章全体を形作っています。その手法は展開というよりも変奏に近いものです。

第4楽章：フィナーレ；アレグロ・アッサイ 2/4 変ホ長調 ソナタ形式
第2楽章に加えてこの第4楽章の曲調が、この弦楽四重奏曲を「スラブ風」と呼ばれる所以です。

「ハッピーバースデー」変奏曲

～ 休憩 ～

第2部

淀川萌 (ソプラノ) + マイ・ハート弦楽四重奏団ひろしま

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756~1791) Wolfgang Amadeus Mozart
モテット「躍れ喜び幸いなる魂よ」より「アレルヤ」アレグロ へ長調 2/4 (1773年)

オーストリアの音楽家モーツァルトがミラノ (イタリア) 滞在中に作曲したこのモテットは、さしずめ声楽と管弦楽のための協奏曲のような構成になっており、その終楽章「アレルヤ」は歌詞「Alleluia」(神を褒め称えよ)をひたすら繰り返します。厳粛ながらも華やかで、抜けるような青空を想起させます。

「日本の四季」メドレー
冬の夜・どこかで春が・茶摘み・ちいさい秋みつけた・故郷

「ピースハーモニーみよし」+ みわ室内オーケストラ

沖田孝司 (1958～)：作詞・作曲 「We love the EARTH from HIROSHIMA」
沖田孝司 (1958～)：作詞・作曲 「三の次と書いて三次と読みます」
ゆきまさるとよひこ (1958～)：作詞、沖田孝司 (1958～)：作曲 「伝えよう笑顔と心」



新生三次市 誕生20周年記念



マイ・ハート・チャリティー・コンサート

出演 / マイ・ハート弦楽四重奏団ひろしま



2024年 **9.15** [日] ■開場/13:30
■開演/14:00

[会場] 三次市民ホールきりり



二代目 辻村 寿三郎

人形アーティスト

1948年広島県生まれ。1991年初代辻村寿三郎氏に師事。2021年二代目辻村寿三郎を襲名。現在、初代辻村寿三郎の心と技を伝えるべく、人形教室やギャラリートークを行うほか、全国各地にて講演、コンサートなど精力的に活動中。



淀川 萌

ソプラノ

広島県三次市出身。広島音楽高等学校在学中に全日本滝廉太郎声楽コンクール優良賞を受賞。国立音楽大学声楽科入学後、2006年よりウィーンへ留学。ベルヴェデーレ国際オペラコンクール日本代表として世界大会に出場。現在、コンサート活動の他、みよしKIRIRI児童合唱団等々、後進の育成、指導を行っている。三次音楽家協会正会員。

マイ・ハート弦楽四重奏団ひろしま

1995年、ヴァイオリン奏者の沖田孝司が中心となり結成された弦楽四重奏団。本拠地は広島。被爆80周年、結成30周年という節目の年となる2025年は、ヨーロッパ3カ国でのコンサートを計画中。また、10枚目となる記念CDをリリース予定。自分たちの「言葉」で、自分たちの「音楽」を奏でる稀少な弦楽四重奏団として、今後の動向・活躍が多いに期待されている。



ピースハーモニーみよし

三次市「平和のつどい」にて誕生した音楽隊。2024年6月1日には、「三次市市制施行20周年記念式典」にて、「三次愛」を高らかに演奏。三次市内の5合唱団とみわ室内オーケストラで編成。

主催/新生三次市誕生20周年記念「マイ・ハート・チャリティー・コンサート」実行委員会 (国際ソロプチミスト三次、三次国際交流協会、「マイ・ハート・コンサート」推進委員会)

■後援 / 三次市、三次市教育委員会、三次市議会、三次市社会福祉協議会、三次ケーブルビジョン、三次法人会、三次シニアライオンズクラブ、三良坂ライオンズクラブ、三次ロータリークラブ、三次中央ロータリークラブ、吉舎ロータリークラブ、三次青年会議所、広島県立三次高等学校同窓会

■協力 / 三次商工会議所、広島経済同友会備北支部、三次広域商工会、三次市観光推進機構

挨拶

新生三次市誕生20周年記念「マイ・ハート・チャリティー・コンサート」実行委員会

実行委員長 **伊藤 安子**（国際ソロプチミスト三次会長）

副実行委員長 **細川 喜一郎**（一般財団法人三次国際交流協会理事長）

同 **沖田 孝司**（「マイ・ハート・コンサート」推進委員会代表）



伊藤 安子

細川 喜一郎

沖田 孝司

去る2024年6月1日（土）、三次市民ホールきりりにおいて、「三次市市制施行20周年記念式典」が挙行され、そのアトラクションにて、今回のコンサートでのフィナーレを飾る三次縁の3曲の合唱曲が、沖田孝司指揮の下、100名を超える「ピースハーモニーみよし」（市内7合唱団+みわ室内オーケストラ）にて演奏されました。

この式典への参加が、三次市からの招待者・関係者が中心であったこともあり、一般の方々から、そして、出演者・関係者より、是非、再び聞きたい、聞いて頂きたいとの希望・要望が多々あり、この度、その喜びと感動を、より広く、より多くの市民の皆さんと共有するとともに、これからの三次市にエールを送る「三次讃歌」コンサートを開催する運びとなりました。

またこのコンサートは「チャリティー・コンサート」として、収益の一部を実行委員会の構成団体である国際ソロプチミスト三次、三次国際交流協会へ寄贈させて頂くとともに、三次市内の外国人居住者、点訳サークル「ほおずき」関係者等々を招待させて頂いております。

出演は、三次市三良坂町出身で、「三次市役所落成記念」祝賀演奏をはじめ、20年前の旧三次市文化会館における「新生三次市誕生記念式典」にて祝祭合唱団を指揮し、この度の「三次市市制施行20周年記念式典」において「ピースハーモニーみよし」を指揮した沖田孝司が主宰し、奥田元宋・小由女美術館開館記念式典・開館10周年記念事業、そして、三次市民ホール「きりり」開館事業に出演した「マイ・ハート弦楽四重奏団ひろしま」を招聘し、三次市在住の二代目辻村寿三郎（人形アーティスト）、淀川萌（ソプラノ）、ピースハーモニーみよし（三次市内の5合唱団、みわ室内オーケストラで編成）とともにコラボします。

さあ、三次市の「二十歳」を祝う「三次讃歌」コンサートの開始です。



衆議院議員 **岸田 文雄** 「マイ・ハート・コンサート」推進委員会顧問

新生三次市誕生20周年記念「マイ・ハート・チャリティー・コンサート」が、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

マイ・ハート弦楽四重奏団ひろしまの皆様におかれては、1995年の結成以来、広島県内の活動に留まらず全国でクラシック音楽の魅力を広く発信されていることに深く敬意と感謝の意を表します。

本コンサートは、先日挙行された三次市市制施行20周年記念式典で披露された祝賀演奏の感動を、より広く市民の皆様と共有し、三次市にエールを送るために企画されたといいました。

三次市のこれまでの歩みを振り返り、郷土愛が深まりますとともに、街の更なる飛躍に繋がる心温まるひと時となりますことを期待いたします。

沖田孝司代表をはじめ、マイ・ハート弦楽四重奏団ひろしまの皆様が今後ますますご活躍されますとともに、ご参集の皆様のご健勝・ご多幸を祈念いたしましてお祝いのご挨拶とさせていただきます。

祝辞



広島県知事 **湯崎 英彦**

「マイ・ハート・チャリティー・コンサート」が、新生三次市の誕生20周年を記念して盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

主催の新生三次市誕生20周年記念「マイ・ハート・チャリティー・コンサート」実行委員会を構成する、国際ソロプチミスト三次、一般財団法人三次国際交流協会、及び「マイ・ハート・コンサート」推進委員会におかれましては、日頃から、県行政の推進に御協力いただき、厚くお礼申し上げます。

本日は、ドヴォルザークの弦楽四重奏曲第10番変ホ長調や、ハッピーバースデー変奏曲、「日本の四季」メドレーに加えて、「マイ・ハート・コンサート」推進委員会代表の沖田孝司さんによる「We love the EARTH from HIROSHIMA」などが披露される、大変聴きごたえのあるコンサートになるとお聞きしております。

是非とも、生演奏の力によって、音楽の魅力を伝えられるとともに、笑顔と心をつなぐ音楽の力を広く発信していただき、会場が多くの感動で包まれることを念願しております。

結びに、開催に御尽力いただきました国際ソロプチミスト三次、一般財団法人三次国際交流協会及び「マイ・ハート・コンサート」推進委員会をはじめ関係の皆様に、改めて感謝申し上げますとともに、本コンサートの御成功と御出演の方々の今後のますますの御発展並びにお集まりの方々の御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



広島市長 **松井 一實** 全国・広島県市長会会長

「新生三次市誕生20周年記念『マイ・ハート・チャリティー・コンサート』」が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

三次市の皆様、新生三次市誕生20周年、誠におめでとうございます。

平成16年4月に誕生した「新生三次市」は、中国地方の中央部に位置しているという拠点性を有し、江の川や中国山地など四季折々の表情を見せる豊かな自然、各地に息づく伝統・文化など、多彩な地域資源を有する魅力あふれるまちです。三次市の今日の発展を支えて来られた福岡市長を始め、市民の皆様には深く敬意を表しますとともに、三次市の今後一層の発展を心からお祈り申し上げます。

「マイ・ハート弦楽四重奏団ひろしま」は、本市の文化大使を務められる沖田孝司氏を中心に結成され、広島はもとより全国各地で生の音楽を身近に感じる機会を提供されています。この度の演奏会においても、磨き抜かれた弦楽四重奏により、御来場の皆様には安らぎと生きる喜びを届けられ、平和への思いを共有する「平和文化」が更に広がっていくことを願っています。

結びに、本コンサートの御盛会と御列席の皆様のご今後ますますの御多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



三次市長 **福岡 誠志**

新生三次市誕生20周年記念 マイ・ハート・チャリティー・コンサートの開催、誠におめでとうございます。

三次市は、平成16年4月の市町村合併から、本年4月で20周年を迎え、新たなまちづくりの総合指針である「第3次三次市総合計画ーみよし未来共創ビジョン」を策定し、「人と想いがつながり、未来につなぐまち」をめざして、共創のまちづくりに取り組んでいるところです。

こうした中、本日のコンサートでは、本市出身のヴァイオラ奏者 沖田孝司様の指揮の下で、マイ・ハート弦楽四重奏団ひろしまの皆様とともに、ソプラノ歌手淀川萌様、そして、市内各地域で活動されている皆様、一堂に会し、ステージいっぱいに躍動されます。

本市の音楽振興に大きな効果があると同時に、市民一人ひとりの想いが活かされ、未来に向けてつながり合うまちを共に創っていく上で、とても貴重な機会であると思います。

ここ三次市民ホールきりりに、ご出演の皆様が奏でる多彩な音色と、優しく、温かい歌声が響きわたることを、大いに期待しています。

結びに、ご出演の皆様のご活躍を祈念いたしますとともに、本コンサートの開催にあたり、ご尽力いただきました関係者の皆様に深く敬意と感謝の意を表し、祝辞といたします。



三次市教育委員会 教育長 **迫田 隆範**

8市町村が合併して誕生した「三次市」は、市民をはじめ多くの皆様のご尽力とご協力に支えられ、20周年を迎えました。本日は、この喜びと感動を共有し、今後の三次市へエールをお送りいただく「新生三次市誕生20周年記念マイ・ハート・チャリティー・コンサート」が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

県内外で幅広く活躍されているマイ・ハート弦楽四重奏団ひろしま様、本市出身のソプラノ歌手 淀川萌様、市内の団体が編成されますピースハーモニーみよしの皆様とのコラボ3部構成という、いずれも本市に縁の深い方々の演奏を大変楽しみにしています。

「ひとりひとりの心・想いを環（つな）ごう」というテーマで始められた「マイ・ハート・コンサート」が、本日本市と縁の深い皆様により開催され、さらに演奏される方々と、鑑賞される皆様の心と想いが共有されることで素晴らしいコンサートになることでしょう。

本市では、「みよし結芽人〜幸輝心〜」をスローガンに、子どもたちの未来を応援し、生涯を通じた学びや芸術文化活動を市民の皆様と共創していくことをめざしています。今回のコンサートをこの良き機会として、誰もが幸せに向かって成長し続ける教育を進めてまいります。結びに、本コンサートの成功と関係者の皆様の益々のご活躍とご健勝を念じ、お祝いの言葉といたします。



三次市議会議長 **山村 恵美子**

新生三次市誕生20周年記念マイ・ハート・チャリティー・コンサートが開催されるに当たり、三次市議会を代表してお祝いを申しあげます。

「マイ・ハート弦楽四重奏団ひろしま」の皆さまにおかれましては、日頃から三次市へのひとかたならぬご支援とご協力をいただいておりますことに対し、心より感謝申し上げます。

今回は、本市のご出身で、日本を代表する声楽家である淀川 萌さまや市内音楽隊「ピースハーモニーみよし」の皆さまとのコラボ公演ということで、マイ・ハート・コンサートのファンの方はもちろんですが、地域で音楽を愛し、楽しられている市民の皆さまにも、これまでと違った空間が楽しみたいだけのもので大いに期待しております。

三次市も平成の大合併から今年で20周年を迎え、人の想いがつながり、未来につながるまちづくりを目指して「第3次三次市総合計画」が策定されました。

市議会といたしましても「注目される議会」をキーワードに、市民から期待される議会を目指すとともに、笑顔あふれる「ふるさと三次」の実現に向け、今後も、取組を進めてまいります。

ぜひ、「マイ・ハート弦楽四重奏団ひろしま」の人の心・想いを環（つな）ごうと奏でられる音色が市民一人ひとりを繋げ、そして、新たなまちづくりの大きなツールとなることを心から願っています。

結びに、本日ご出演の皆さまの益々のご活躍と、ご来場の皆さま方のご健勝とご多幸を祈念し、お祝いの言葉といたします。